

Aichi University

Lingua



INSTITUTE FOR LANGUAGE EDUCATION, AICHI UNIVERSITY
No.3 December 2013



The arrival of GUMDROP at the start of the Fete

(詳細は A Glimpse of England in the Summer of 2013 P.21 ~ をお読みください)

CONTENTS

◎ 特集 オススメ海外文化情報 ~ 英語圏特集 ~

あなたも、海外の服を着てみませんか？	経営学部	小野 良太	2~3
イギリスはおいしい	経営学部	古川 千歳	4~5
イギリスのうなぎの話	地域政策学部	早川 勇	6~7
もう1つのラスベガス	経済学部	塩津 ゆりか	8~9
英語圏寿司事情	経済学部	川端 朋広	10~11
スコットランドと首都エジンバラ	国際コミュニケーション学部	西部 真由美	12~13
イギリスは本当に料理がマズイのか？	国際コミュニケーション学部	鎌倉 義士	14~15
ニューヨークのエスプレッソバー	現代中国学部	川村 亜樹	16~17
英語でプレゼンにチャレンジ	経済学部	三川 克俊	18~20
A Glimpse of England in the Summer of 2013	法学部	John Hamilton	21~24

◎ 座談会 「TOEIC 300点から始めて…」

◎ ロシア短期留学報告	国際コミュニケーション学部3年	宮西 恵梨	28
	国際コミュニケーション学部4年	今泉 亜悠	29
・ ~大盛況のLLシアタールーム~ 豊橋校舎ランゲージセンター施設紹介			30
・ 2013年度春季フランス語関係検定試験合格実績・e-ラーニング学習状況			31
・ 2013年度 外国語検定試験奨励金のご案内・編集後記			32

オススメ海外文化情報

～英語圏特集～

あなたも、海外の服を着てみませんか？

経営学部 小野 良太

今回の特集は「海外文化情報（英語圏）」ということですが“文化”とはそもそも何でしょうか。答えを見つける一つの有効な方法に、Metaphorを考えてみるがあります。「文化とはXのようなものだ」と、文化をそれとは別種のXに喩えてみるのです。

私は、文化のMetaphorのひとつは“着ている服”と言えるのではないかと思います。服には、「本人に着ていることを常に意識させているわけではないけれども、その人のその時の姿勢や言動に強く影響する」という特徴があります。文化も、そこに住む人にこのような影響を与えたいと思います。

私たちは、普段“日本文化”という服を着ているので、無意識にこの服に合った言動をしています。ところが、海外にある期間滞在すると、自然と、日本の服を脱いで、その国の服を着るようになります。すると、面白いことが起こり始めます。

私は大学卒業後、現在の国際協力機構（JICA）に就職し、在職中に、アメリカのコロラド大学ボルダー校の大学院修士課程で2年間、情報通信を学びました。人生初の留学、かつ海外居住でした。

アメリカ人は、自分のキャリア形成において、大学での専門的な勉強に大きな価値を置いています。そのようなアメリカ人の中に入り、“アメリカの大学生”という服を着ることにより、自分の勉学に対する姿勢が、日本の大学時代とは比べものにならないくらい真剣なものに変わりました。また、大学の教授陣に積極的に関わっていくことで、授業内容の理解以外に、教授の人柄からも多くのことを学び取りました。そして、私は2年間アメリカ服を着たことによって、自分が研究に惹かれる人間であることを発見しました。



この発見が、その後の私のキャリアを大きく変えることになりました。数年後、私はJICAを退職し、大学教員になるという新しい夢を目指して、アメリカのハワイ大学マノア校の大学院博士課程に留学しました。同じアメリカとは

言いながら、ハワイにはハワイ文化、つまり、ハワイの服がありました。それは、“オハナ”、つまり、“皆家族の一員”という服でした。このハワイ服が、我が家の2歳と4歳の娘たちの子育てに、最高の環境を提供してくれました。今は20代半ばになっている娘たちも、「自分たちの子育てもハワイでしたい」と言っています。

ハワイ大学の大学院を卒業した後、家族と共にシンガポールに移り、南洋理工大学で大学教員としてのキャリアをスタートさせました。同国には、アジア、オセアニア、アメリカ、ヨーロッパからの影響が浸透し、多国籍の人々が至る所に見られました。多国籍国シンガポールの

服を着るようになって、私の人を見る目が、「あの人は～人」というステレオタイプのものから、「あの人はこういう人」という人物本位に変わっていきま

した。また、一口に英語と言っても、“Singlish”と呼ばれるシンガポール英語から、マレー英語、中国英語、インド英語と、国の数だけ違う英語の発音がある現実と直面し、私の耳も、そのような違う英語を聞き取れるようになっていきました。インターナショナルスクールに通っていた我が家の子どもたちも、このような多種多様な人々と毎日を過ごし、世界はこのような人たちで成り立っていることを実感として学んでいきました。シンガポール服をまとったために実感できた世界の多様性でした。

私は、2000年に愛知大学に赴任しましたが、

2008年の夏から、オーストラリアのクイーンズランド工科大学に客員教授として1年間滞在しました。オーストラリアはイギリスからの移民が築いた国なので、あちらこちらにヨーロッパ文化の影響が見られます。オーストラリア服を着たことで初めて、長い間まとっていたアメリカ服には人に競争や集中に運んでいく特徴があったことを発見しました。オーストラリア服には、人にリラックスする時間を大切にさせる特徴がありました。この特徴はヨーロッパから来たのだと思いますが、オーストラリア服を着た同国の人達は、このリラックスした時間を通して、人と人とのつながりを深め、人生を謳歌

しているようでした。このような特徴をもったオーストラリア服を着たことで、私は、オーストラリアで親友をつくることができました。

2012年春 オーストラリア短期語学研修

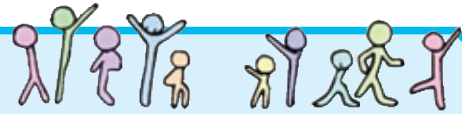
自分の国に

留まっている限り、着る服は固定されます。それは、その人の考えや行動が自ずと固定化されてしまうことを意味します。世界には日本の服とは違った服が本当に沢山あります。文化という異なった服は無料で着られます。着てみると、自分の中から、今までとは違った自分が現れます。この新たな自分の発見が、短期留学も含めた海外滞在によってもたらされる最大の恩恵ではないかと思います。

どうですか、あなたも、大学在学中に海外の服を着始めてみませんか？



イギリスはおいしい



経営学部 古川 千歳

「イギリスに長期留学していました」と自己紹介をすると、「イギリス料理まずいよね。よく生活していたね」とほとんどの人が言う。「そんなにイギリス料理はまずいと思われているのか」と少しがっかりする。経験上、イギリスで食べる料理は、よほどのことが無い限りおいしいと感じるからだ。そこで、今回は、ロンドンで特においしいと感じたマーケットとカフェを紹介したい。

写真1は、ロンドンプリッジ近くで週末に行なわれるバラ・マーケット（Borough Market）のベーカーリーである。



写真1：バラ・マーケットのベーカーリー

写真1から、いろんな種類のパンやケーキを売っている様子がうかがえる。このようなベーカーリーがマーケット内には何軒もある。その一

軒から、クロワッサンと、近くの店舗からチャイを購入して食した。見た目を裏切らず、バター風味豊かなクロワッサンと、おろした生姜を使った本格的なチャイであった。

マーケット内の店舗では、ベーカーリーだけではなく、いろいろな種類の食品が調理されている。例えば、ダチョウ肉のバーガー、豚肉ソーセージのバーガー、パエリア、スムージー等が販売されている。マーケット内には、ベンチやテーブルも用意されており、ゆっくり座って食事することができる。ロンドン観光のスタートにはもってこいの朝食である。

また、新鮮な野菜、乳製品、生肉、魚介類、オーガニック食品もマーケットで手に入る。イギリスの食品・食材のみならず、ヨーロッパを代表する食品・食材が集まっている。例えば、オリーブ、チーズ、ワイン、オーガニック豆腐、ジャム、ハチミツ等も販売している。これらの食品・食材を販売している大抵のお店で試食ができ、散策を楽しめる。お土産として買っていく人もいれば、レストランの食材として購入していく料理人もいる。

是非、週末にロンドンに滞在するならば、バラ・マーケットでヨーロッパ各国から集まる食品・食材の試食を楽しみ、おいしい雰囲気を楽しんで欲しい。観光客にも人気になりつつあるバラ・マーケットは、水曜日から土曜日に開催されている（WEBリンク：<http://www.boroughmarket.org.uk>）。訪問した土曜日には早朝からマーケットが開かれており、いろいろな国からの観光客が朝食を求めて、マーケットに集まっていた。

写真2はビクトリア・アルバート・ミュージアム (V & A) のカフェ (WEB リンク: <http://www.vam.ac.uk/content/visit-us/eating-and-drinking-at-the-vanda/>) で食べたラップサンド (サンドイッチに並ぶイギリス定番の軽食) とサラダである。



写真2. ビクトリア・アルバート・ミュージアム (V&A) のカフェでの昼食

ラップサンドの中身には、ハモスといわれる茹でたひよこ豆をペースト状にし、にんにく、オリーブオイル、塩、レモン汁等で味付けしたものが挟んであった。そしてサラダはセロリと人参、トマトとじゃがいもの2種類である。イギリスには野菜しか食しないベジタリアンが多いので、野菜のみを使った料理もおいしく調理されている。

カフェのみならず、V&A は美術館としても素晴らしい。ロンドンを代表する TATE ミュージアム、ナショナルギャラリーに匹敵する。特に、ヨーロッパの芸術、彫刻、ファッション、デザインに興味がある人は、一度は訪れるべきである。

写真3は、ロンドンにあるフォートナム&メイソンの紅茶とスコーンである。

写真3中央にあるスコーンに付けるのはクロデットクリーム (生クリームとバターの中間物のような乳製品) とストロベリージャムである。

たっぷりのクロデットクリームとジャムを付けたスコーンのティータイムは至福の時だ。

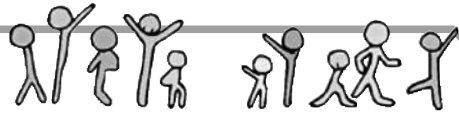
実は、フォートナム&メイソンは、日本でも店舗を構えている。名古屋では、ミッドランドスクエア (名古屋駅前) とラシック (栄) に2店舗ある。是非、名古屋のフォートナム&メイソンにて、アフタヌーンティーセットを味わって欲しい。このセットには、今回紹介したスコーンの他にサンドイッチとケーキがついている。イギリス人のようにゆったりとしたティータイムを味わって欲しい。



写真3. フォートナム&メイソンのスコーンと紅茶

お勧めしたいところは、今回の記事に書いた以外にもたくさんある。例えば、バブ料理 (フィッシュ&チップス、シェパードパイ)、バーミンガムのバルチカレー、サリーランのクリームティー、チャイナタウンの飲茶等である。イギリスに行く機会があれば、いろんな所を探索しておいしいものを見つけて欲しい。「イギリスはおいしい!」と、イメージが変わるはずだ。

イギリスのうなぎの話



地域政策学部 早川 勇

私が20年近く前に留学していたエクセター市にはエックス川が流れていた。この川岸を散歩するのが好きだった。ここで釣りをする人を見かけた。何を釣っているのですか。eel と答えたので驚いた。この地方の研究者によると、この地域では昔からうなぎをよく食べていたという。かつて、イギリスではテムズ川のうなぎが最高とされていた。欧米では皮をむいて料理するが、日本では皮もいっしょにかば焼きにする。

浜松にはうなぎパイというお菓子がある。これがおいしい。本当にうなぎが入っているのかと思うが、入っている。ただし、一度粉末にするので、その味は余りしない。このうなぎパイをぜひロンドンで食べてみたい。聞くとところによると、イギリスでは、パイ生地とうなぎをぶつ切りにして入れ焼き上げる。これにマッシュ・ポテト (mashed potato) をそえパセリの緑色ソースをかけると、伝統的なパイ・アンド・マッシュ (pie and mash) ができる。

ロンドnbrリッジの駅から20分ほど歩いたところに、私のめざす M. Manze のお店はあった。日本でいう大衆食堂といった趣きだ。カウンターで注文をして、自分で料理を運ぶ。お店の袋には Superior Hot Stewed Eels とある。カウンターで eels and mash と jellied eels を注文した。ほぼ4ポンドと3ポンド(私が訪れた2010年頃、1ポンドは約250円) で手頃な値段である。こ

の店のパイはミートパイになっていて、うなぎは入っていない。

さて、念願のロンドンのうなぎである。ぶつ切りにしたうなぎにパセリの緑色ソースがかかっていて、それにマッシュが添えてある。ぶつ切りにされたうなぎを見たら、日本女性はそれだけで食欲がなくなるだろう。目の前のうなぎをおそろおそろ口に入れるが、思ったほど臭みはない。しかし、おいしくない。それよりもうなぎにはかなり固い骨があるので、食べにくい。うなぎゼリーも食べたが、そのままでは食べられない。お酢をかけたら多少は食べられようになった。結局、この食堂で一番おいしかったのはマッシュだった。



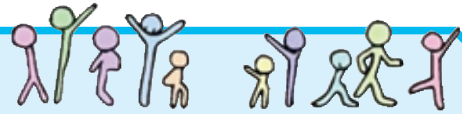
18世紀のロンドンでは、eel は貧しい人々の重要な栄養源であったという。その後、うなぎの人気は衰えた。このお店の雰囲気や料理の内容はまさにそのようなものである。労働者階層が食べる料理にそれほど手をかけることはでき

ない。そんなことをしていたら、値段も高くなってしまう。食事にくる人たちも、飲み物などほとんど注文せず、食べ終わるとさっさと店をあとにする。

ここであなぎとパイを食べたあと、私はつくづく思った。私たちは本当に素晴らしい食文化を有する国に生きている。うなぎの蒲焼きのような文化をつくりあげた。固い骨はとり、固い皮は十分に焼きそれを楽しむ。考えてみたら、絶品だ。この10年、イギリスの食事は随分おいしくなった。イギリスの料理はまずいなどと誰にもいわせない。しかし、日本の食文化には勝てない。



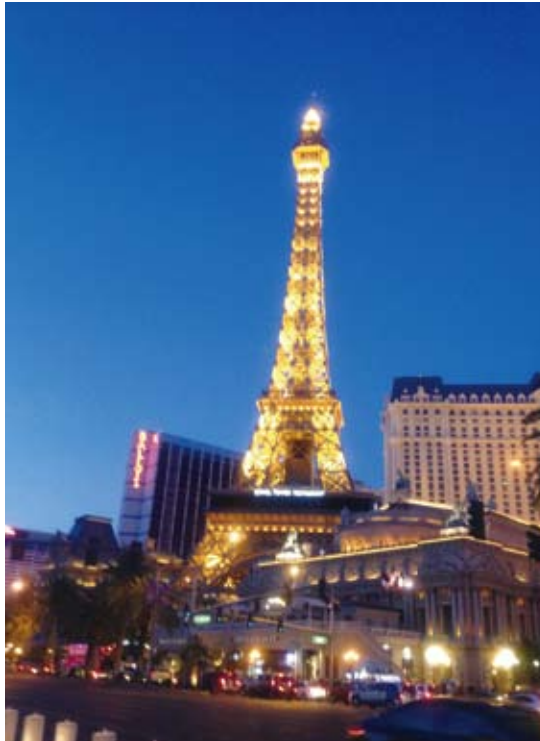
もう1つのラスベガス



経済学部 塩津 ゆりか

ラスベガスはアメリカ西部・ネバダ州最大の都市である。よく知られているように、カジノやショーなどエンターテインメントの街だ。緯度は東京と変わらないのに、砂漠の真ん中にあり、夏の平均最高気温は40℃、湿度は10%以下である。1820年代にネバダ砂漠で発見されたオアシスということで、地名はスペイン語で「肥沃な草原」だという。

実際、サンフランシスコからラスベガス行きの機内からの風景は、ゴールデンゲートブリッジを過ぎると、だんだん赤茶けた砂漠が広がっていく。そして、眼下には社会科の教科書に出てくるような、円形の大規模灌漑農場が点在している。そう言えば、家の近所のスーパーにもオマーン産インゲン豆が売っていて、ときどき食べている。



この下の農場では何を作っているのかな？などと想像しながら過ごしていると、目の前に不思議な光景が広がっていて唖然とした。ミニチュアなどではない、ピラミッドやエッフェル塔、自由の女神にアラブのお城、そして椰子の木がある。思わず、自分がどこへ来たのか疑いたく

なるような、謎の街がそこにある。ガイドブックはもちろん、ネットで調べることもなく来てしまったせいで、訳が分からない。

でも、である。サンフランシスコでアメリカに入国する時に、共同研究者とこう言ったのだ。「入国の目的は、国際学会での報告です」と。不審そうにいぶかる入国審査官、トランジッ

トの空港係官からは「ベガス、いいねえ。楽しんで来いよ！」と言われての到着だった。意外にも、ラスベガスは巨大なコンベンションセンターがある。その上、例のピラミッドやエッフェル塔は、客室数が1000以上の巨大なホテルで、中には自前の会議場を擁しているものもある。そのため、国際会議や見本市が目白押し

の街でもあった。ちなみに、ラスベガス観光局のサイトによれば、年間のコンベンション参加者数は、約495万人となっている。ラスベガスへの年間訪問者数が約4000万人だから、こうしたコンベンション参加者は訪問者全体の1割を超えており、どうやらリゾートだけの街ではないらしい。

空港から一歩外へ出ると、まるでフライパン

の上に乗っているような熱気だ。日差しもチリチリ、とても日中は屋外にはいられない。学会の会場であるミラージュホテルにチェックインすると、今度はカーディガンを羽織らなければ寒いぐらいである。早速、招待講演と学会主催のウェルカムレセプションに参加した。さすがに国際学会だけあって、世界各国からの参加者がドレスアップして出席している。こんなに寒いのに、ヨーロッパの女性たちは、色とりどりのノースリーブのドレスで着飾っている。アジア系の参加者の方が長袖、とりわけ日本人は男女ともにビジネス・スーツですぐに見分けがついてしまう。服装の話でいえば、翌日からの学会報告では、なんとポロシャツに短パンでいる人が多数派なのには驚いた。筆者の所属する経済系の国内学会ではスーツ着用が暗黙の了解だから、ここまでカジュアルなスタイルは考えられない。もっとも、ラスベガスのリゾートホテルの中ではスーツの方が浮いてしまうのだが。

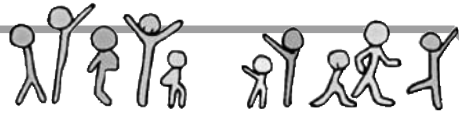
2日後、無事に学会報告を済ませて、夜のラスベガスに繰り出した。まずは、トレジャーアイランドの海賊ショーに行ってみた。白煙が上がり、マストの上から海賊が現れる。今度はこちらから花火が上がり、女海賊たちが踊り出す。20分あまりのショーだった。少し日が暮れてきたので、そこから歩いて今度は、ベラッジオの噴水ショーに行ってみた。この場所は、いろいろな映画の撮影シーンが撮られている。最近の映画だと、中居正広主演の「ATARU」にも出てくる。時間帯によって、演出がちがうことを聞いていたので、まずは、夕暮れ時のショーを見た。ショーが始まると、20階建て相当ぐらいの高さまで噴水が上がり、まるでパレエダン

サーが踊るかのようなしなやかな動きを見せたかと思うと、滝のように一筋になって降ってきて、ものすごい迫力だった。夜までの時間にピラミッド型のホテル、ルクソールを見に行くことにした。ドアを開けてびっくりしたのは、ピラミッドの内部すべてが吹き抜けのカジノだったこと、そして、奥のスロットマシンの上には、本物のドイツ車が商品として回転していたことだった。客室はどこか不思議に思っただけで、隣の箱形のビルだという。スケールの違いに改めて感心した。再び、ベラッジオの噴水ショーを眺めて、最後は、ミラージュの火山ショーに行った。幸い、一番前のいい場所から見ることができた。本物の火を使い、こちらまで火が踊るように迫ってくる。クライマックスは、溶岩が吹き出すように花火が上がって、火の手が間近になるのに、思わず熱さを忘れて見続けてしまった。

その他にもシルク・ド・ソレイユのショーや絶叫系のライディングマシーンがあったようだが、今回は仕事ということで、後ろ髪を引かれながら、帰国の途についた。またいつか、リゾートで訪れたい街が1つ増えた旅だった。



英語圏寿司事情



経済学部 川端 朋広

日本食の中でも、海外の人たちにとって最もポピュラーなものは何かといえば、やはり寿司であろう。ここでは、筆者が英語圏への渡航経験の中で出会った寿司について紹介したい。



上の写真は、2003年1月、学生引率でイギリスを訪れたときのものである。休日を利用してロンドンに行き、パディントン駅の構内になんと回転寿司屋を発見！時間がなかったので、このバックを購入し、滞在先のエクセターまで帰る特急列車の中で食したのだった。日本で言えば、新幹線のようなものなので、別に食事していてもおかしくはないのだが、イギリスの列車内で広がる醤油の香りはなんとも気恥ずかしく、急いで食べきったのを憶えている（笑）。なので、味もよくは覚えていないのだが、まあ、普通の回転寿司屋さんの味であった（と思う）。

白黒だとわかりにくいですが、サーモンとマグロのセットで5ポンド。当時のレートで言うと約1000円！ということで、買うのにはちょっと勇気が要ったが、向こうの人たちにとっては、レートがどうであれ、感覚としては「1ポンド=日

本人にとっての100円」みたいなところなんで、現地ではまあ妥当な値段なのだろう。ロンドンのガイドさんいわく、イギリスでは回転寿司の方がより高い場合もあるとのこと。たしかに、普通に寿司を出すお店より1ギミック追加されてるといえば、その通りなのだが、考え方の違いが面白い。

さて、所変わって、次はオーストラリア。2005年（多分）に訪れたメルボルンの回転寿司屋である。ここも、いたって普通の回転寿司屋で、今の日本の店ほどバラエティに富んだメニューはなかったが、握りから巻物、軍艦まで一通りのものはそろっていた。が、……。何か感じる違和感。ほどなく気付いたそれは、ガリが有料で、他の寿司と同じく一皿ずつ商品として売られているということ。残念ながら値段は忘れたのだが、一番安い玉子の握りなどと同じだった（と思う）。



知っている人も多いかもしれないが、飲食店で水やお茶がタダで出てくるのは日本だけで、海外、とくに英語圏の国では、一部の例外を除

いて、水も原則有料である。しかし、ガリが有料とは！予想外であった。味は・・・普通のガリ（笑）。メルボルンは国際的な都市で、アジア系の人口も多い。そのため、日本食だけでなく、中華やタイ、ベトナム料理店なども多く、様々な食文化が楽しめる場所である。

さて、トリを飾るのは、今も憧れのリゾート地ナンバーワン（？）のハワイである。ハワイが純然たる英語圏と言ってよいのかは議論の余地があるかもしれない。しかし、日系人を含むアジア系の人たちの文化が、ポリネシア系のハワイアン・ネイティブ文化や白人のもたらした西洋文化と渾然一体となり、なかなか面白いのだ。興味を持った方は、観光だけでなく、歴史や文化も調べてみることをオススメする。

で、写真は2008年（頃？）、ホノルルのスーパーで買ったものである。写真奥の巻物、名前はなんと、Caterpillar Roll！キャタピラーですよ！といっても、重機の方を思い出してしまっていて、いまいちピンとこない人が大部分かもしれないが、辞書があったら、すぐに引いてみてほしい。caterpillarとは本来、「芋虫」のことである。機械の意味は後で転用されたのだ。だから、この名前は訳すと「芋虫巻き」である！どうです？

食べたくなっただしょ（爆）。

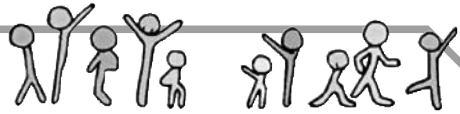
白黒ではわかりにくいがいや、白黒で良かったと言えるべきか？）、外側にはスライスしたアボカドが巻かれていて、実に鮮やかな緑色である。（ちなみに、綴りはavocado。読み方もアボカドであって、断じてアボガドではない！）

ハワイではこのほかにも、サーモンのすき身にクリームチーズを散らした巻物や、マグロのすき身にチリパウダーと醤油で味付けしてある軍艦など、美味しいオリジナル寿司にたくさん出会った。写真手前のような、海苔の中に入れて巻く「裏巻き」も多い。

前に述べたとおり、最近の日本の回転寿司チェーン店は、かなりバラエティに富んだ創作寿司を提供してくれるが、ここ十年ほどの流れを見てみると、むしろその文化は、こうした海外での文化が逆輸入されたものではないかという印象すら抱く。異国文化が触れ合うときにこそ、単独では生まれない面白いものができることも多いのだ。皆さんも海外に行った際には、その地で敢えて寿司を頼んでみてはいかがだろうか。



スコットランドと首都エジンバラ



国際コミュニケーション学部

西部 真由美

皆さんは「スコットランド」という地域の名前を一度は聞いたことがあるでしょう。スコットランドは、英国の国土の中心的な島である「グレートブリテン島」の北部を占める、独自の文化とアイデンティティーを持つ地域です。英国の正式名は、「the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）」であり、その名が示す通り、英国はグレートブリテン島にある3つの地域（イングランド、スコットランド、ウェールズ）と北アイルランドが統一された連合王国です。スコットランドは、かつては「スコットランド王国」という独立国でした。南の隣国であるイングランドとの度重なる紛争を経て、1707年の連合法により「ブリテン連合王国」の一部となりイングランドと合併しました。

このような歴史的背景もあり、スコットランド出身の人たちはイングランド出身の人たちとは異なる国民意識を持っています。私の実体験から一例を紹介しましょう。英国人といってもスコットランド出身の人に、“Are you from England?”などと質問をすれば、“No. I am Scottish.”と憤慨気味に否定されますし、“Are you British?”と聞いた場合でも、“Well. I am Scottish.”と修正が入ることがほとんどです。

意識だけでなく、実社会でも英国だとは思えないことが多々あります。スコットランドでは、英国の通貨とともにスコットランド独自の通貨が使用されています。スコットランド通貨を持ったまま旅を続けてイングランドに入ると、お金として通用しなくなるので要注意です。ま

た、法や教育に関してもスコットランド独自の制度が認められています。特に、トニー・ブレア元首相によるスコットランド自治権の拡大政策とともに1999年にスコットランド国会がエジンバラに設立されてからは、スコットランド独立の気運が高まりつつあります。そしてついに、2014年9月には英国からの独立の是非についてスコットランドの住民投票が実施されます。独立が支持されれば、スコットランドは独立国となり、英国が分裂することになります。歴史的な瞬間を来年の今頃、皆さんは目の当たりにするかもしれません。



スコットランド国会議事堂

さて、日本では「スコットランド」と聞いて連想するのは、スコッチ・ウィスキー、タータン・チェック柄のキルト、バグパイプ、ネス湖の怪物ネッシーなどでしょうか。あるいは、大好きな人は「スコテッシュ・テリア」という愛くるしい短脚の黒色小型犬を、そしてサッカーファンであれば中村俊輔がかつて所属していた「セルティック」というチームを連想するでしょう。

皆さんの親の世代の人たちならば、日本を一斉風靡した「ベイシティー・ローラーズ」というエジンバラ出身のアイドルロックバンドを思い浮かべるかもしれません。彼らのヒット曲「サタデーナイト (S-A-T-U-R-D-A-Y Night!)」は皆さんも聞いたことがあるはずです。(お笑い番組が発端となって再ヒットし、運動会でこの曲に合わせてダンスをした覚えのある学生もいるでしょう。)

スコットランドの首都エジンバラは、旧市街と新市街が調和を成す大変美しく壮麗な城塞都市で、世界遺産にもなっている一大観光都市です。エジンバラ城、ホリールード宮殿、その2つを結ぶ石畳の道ロイヤル・マイルは中世の街並みが残る名所です。また最近では、英国王室所有の豪華客船ブリタニア号や、J.K.ローリングがハリーポッターを執筆していたカフェなどが人気の観光スポットです。

エジンバラでは夏を迎えると、数多くの国際フェスティバルが開催されます。6月の映画フェスティバルに始まり、7月はジャズ・ブルース・フェスティバルやアート・フェスティバル、8月には「ミリタリー・タトゥ」、「フリンジ」、国際フェスティバル、ブック・フェスティバルと、国際色豊かなお祭りが数週間に渡って開催されます。

「ミリタリー・タトゥ」とは、エジンバラ城で開催される軍楽隊の演奏ショーで、バグパイプを奏でるスコットランド軍楽隊と英国やスコットランドにゆかりの深い国々から招待された様々なスタイルの軍楽隊が登場します。「フリンジ」とはコメディ・演劇・音楽・ダンスなどを自由に上演することができるイベントで、格式の高い国際フェスティバルとは対照的です。フリンジに度胸試しにやってくる日本人コメディアンもいます。このシーズンになると出

演者と観光客で街中が埋め尽くされ、ホテルの予約を取るのも困難になります。

有り難いことに、エジンバラにある名門のエジンバラ大学では、夏には英語研修プログラムを開催しますし、学生寮を低料金で宿として開放してくれます。機会があれば、ぜひ皆さんもエジンバラとスコットランドを訪れてみて下さい。



フリンジ開催中のロイヤル・マイルの様子



イギリスは本当に料理がマズいのか？

国際コミュニケーション学部

鎌倉 義士



私は愛知大学に赴任するまでの7年間、イギリスに住んでいました。留学時代の経験を授業内で話すことがあります。そこで学生からこの質問をよく受けます。「イギリスの料理は美味しくないのですね。」この質問は「ですね」で終わることから、学生はある程度知識があり尋ねていることが分かります。Googleで「イギリス料理」と入力すると「まずい」という言葉が高頻度で検索される組み合わせとして出てきます。本当にイギリスの食べ物は美味しくないのでしょうか？私はイギリスに住んだ経験から声を大にして言いたい。イギリスの料理は美味しいです。イギリス料理の魅力をこちらにて説明したいと思います。

「食べる」という行為は人間にとって楽しい行為です。学生のみなさんも午前中の授業でお昼休みを楽しみに待っていることでしょう。誰にとっても楽しみな行為である食事をイギリス人は退屈で魅力のないままにして平気なののでしょうか？ユーロの下落に対し、イギリスは金融業界の好調を背景に2000年代好景気を迎えました。英語しか話せず、外国旅行にあまり興味がなかったイギリス人もヨーロッパ諸国を旅行するようになりました。旅行先で覚えた美味しい食べ物に刺激を受け、私が留学した2004年から現在までイギリスではグルメブームが続いています。ジェイミー・オリヴァーやゴードン・ラムゼーをはじめ有名なシェフがゴールデンタイムの主演としてテレビ番組を持っています。これはイギリス国民が美味しい食べ物に高い興味を持っている表れです。ヨーロッパの金融や文化の中心であるロンドンでは、豚骨ラーメンを食べることができ、主要駅の待合で回転寿司を食べることができます。ロンドンは東京と同様に世界の食べ物が集まる街なのです。これらの事実からも、イギリスでの食事が不味いままであるという意見に賛成できません。イギリスの食事は年々美味しくなっています。

次は、イギリスの美味しい食べ物を紹介しましょう。最初はチョコレートです。映画『ブリジット・ジョーンズの日記』の主人公は、チョコ中毒（alcoholicではなくchocoholic）と自称するぐらいのチョコ好きです。多くのイギリス人女性がchocoholicになるぐらいにイギリスのチョコは味が深く、美味しいものです。特



に、イギリスの乾燥した冬ではチョコが格別に美味しく感じます。代表的なものは、バーミンガムに本社工場を持つキャドバリーのチョコレートです。ショッピングモールにあるHotel Chocolateのチョコは上品な味で、プレゼントとしても喜ばれます。お酒が飲める年齢の学生は赤ワインと一緒に、飲めない学生はコーヒーと一緒に食べてみてください。おいしいですよ。

日本のものと比べて、違いが分かる食べ物はクリスプス (crisps) です。「クリスプス？」と疑問を持つでしょうが、日本では「ポテトチップス」と呼ぶお菓子です。「チップス」はアメリカでの呼び名であり、イギリスではクリスプスです。お菓子と説明しましたが、イギリスではお弁当の副菜的な役割をします。サンドイッチとクリスプス、そしてドリンクという組み合わせは、コンビニやパン屋さんでランチセットとしてお値打価格で提供されます。イギリスでは、クリスプスとサンドイッチは常に一緒に食べる組み合わせなのです。クリスプスには、日本と異なるいろいろな味があります。塩味のオリジナルはもちろん、チーズ&オニオンやフィッシュ&チップスを連想させるソルト&ビネガーが人気です。イギリスにはクリスプスのみをサンドイッチにして食べる人もいます。それぐらい美味しいものだと理解してください。

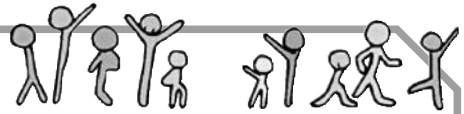
日本で魚が美味しいように、長い歴史に基づく肉食文化はイギリスにありません。イギリスでは、牛・豚・鳥・羊など全てが瑞々しく美味しいです。ベーコンやソーセージを焼き、ハンバーガーのパンズのような丸いパンに挟んだ朝食を仕事に向かう人が通勤中に買って職場に向かいます。イギリスのソーセージはパン粉を多く含むため、ハンバーグに近い食感があります。この感覚を自分が慣れ親しんだソーセージと違うことから、不味いと判断する日本人が多いです。しかし、異なるソーセージをイギリス人が

美味しいと思う感覚を知ることは大切な文化学習です。私が学生時代に学んだ言葉で「異なる味を知ることは異なる文化を自分に取り込むことだ」という考えが私は好きです。多分化に寛容になり、異なる文化を学ぶ姿勢が経験を豊かにし、語学力をあげる力となるはずです。

まだまだ書ききれないほどに、イギリスには美味しいものがあります。ここには紹介できませんでしたが、イギリスとの長年の歴史を持つインド料理のカレーは、日本のインド料理屋とはまた異なる濃厚さがあります。最後に、イギリスで美味しいお店を見つけるヒントは、地元の人に美味しい店を聞くことです。イギリスから帰ってきて、「不味かったよ」という人は美味しい店を尋ねる英会話ができなかったのだと判断してください。地元で良いものを見つけるには言葉が大切です。学生の皆さんも海外で質問できる力をつけるために授業でしっかり勉強してください。今年の夏、ロンドンで初めて不味いインドカレーを食べました。やはり地元の人に聞くべきでした…。



ニューヨークのエスプレッソバー



現代中国学部 川村 亜樹



1984年、スターバックス（Starbucks）が同社初のエスプレッソバーをシアトルのダウンタウンに設置した。それから20年以上が経過したゼロ年代半ば、スターバックスは世界一のコーヒーハウスとしての地位を強固なものとし、デヴィッド・フランケル監督の『ブラダを着た悪魔』（2006）では、世界のファッション業界を牽引するランウェイ社に勤務しはじめたばかりのアン・ハサウェイが、メルル・ストリープ演じる鬼編集長ミランダのために、朝からスターバックスのコーヒーを買いに走っている。つまり、ニューヨーク、マンハッタンの超一流のファッションablな空間に見合うだけの存在感をこのコーヒーハウスが持っていたことが示されている。

その一方で、2007年、男性向けファッション、カルチャー誌『GQ』の50周年記念号は、“Coffee’s Next Wave” と題して、ワインやスコッ

チと同等にコーヒーを扱うラディカルな発想を持つカフェのトレンドを紹介した。また、2010年3月9日付『ニューヨークタイムズ』においてオリバー・ストランドは、ニューヨークにおいて「過去2年間で40以上のカフェやコーヒーバーが、小規模で、専心的な事業グループに参加した。そこでは、コーヒーをいれることが、芸術、あるいは少なくとも、高級な工芸様式として扱われている」と報じている。そして、オレゴン州、ポートランドのスタンプタウンコーヒーロースターズ（Stumptown Coffee Roasters）や、サンフランシスコのブルーボトルコーヒー（Blue Bottle Coffee）の進出によって、ニューヨークはアメリカで最高の豆を使ったコーヒーを飲めるようになったとされている。

最近の目立った動向としては、スタンプタウンコーヒーが2013年5月にオープンさせたグリニッジビレッジの店舗は、ミュージシャン、ボブ・ディランと、ビート詩人アレン・ギンズバーグがはじめて会った場所と言われているエイズ・ストリート・ブックショップを改装した、約100万ドル（1億円）を投じたプロジェクトとなった。ぜひ、外観、内装、道具、カップなどの写真や、詳細な説明が掲載された<http://sprudge.com/stumptown-greenwich-village.html>を参照してもらいたい。作家スティーヴン・ジョンソンがTEDの講演「良いアイデアはどこで生まれる？」で取り上げた、1650年にできたイギリス、オックスフォードのグランドカフェ（The Grand Café）が知的創造の発展に大いに貢献したように、スタンプタウンコーヒーは、コーヒー

のいれ方、そして、空間全体がアートであると同時に、豆の取引やビジネスの持続可能性をめぐって、経済格差や環境問題を改善する取り組みをおこなっている。

ニューヨークの注目すべきカフェを、豊富な写真を交えて紹介した、サンディ・ミラーのアートブック『カフェライフ、ニューヨーク』（2008）は、ニューヨークでも17世紀末にはコーヒーハウスが誕生した、と歴史的背景を振り返り、カフェを知ることは地域を知ることであり、カフェの第一の目的は家と仕事場の向こう側にある、社交場としての「第三の場所」を提供することで、それは窮屈な街中ではしばしば天の恵みとなる、と説明している（10-11）。ニューヨーク市にはマンハッタンを含む5つの街区があり、その一つブルックリンは近年開発が著しいが、「第三の場所」がいかなるものか関心を持った筆者は2012年夏に、本書で紹介されているブルックリンの店をいくつか訪れてみた。

こぢんまりとした簡素な店内でエスプレッソを純粋に楽しめるギンミ！コーヒー（Gimme! Coffee）のプレミアム・アイスコーヒーは、いままで飲んでいたコーヒーは何だったのかと思うほど、確かに感動ものであった。地元の人々が生活の一部として利用していることが、客とスタッフの何気ない会話から感じられ、レジに列ができていのに、見知らぬ旅行者の筆者にまで、「そのTシャツのメッセージ面白いね」などと雑談をしてくれるスタッフの包容力が印象に残っている。また、店の雰囲気ですべてに興味を引いたのは、パークスロープのティーラウンジ（Tea Lounge）だった。ユニオンストリートに面したこの巨大なコーヒーハウスは、近隣コミュニティ全体のための、そして、子育てにやさしい空間をコンセプトとしているだけあって、何時間でもくつろげる家のリビングのような居心地の良さがあった。ポール・オースター

が小説『ブルックリン・フォリーズ』（2006）で、「厳密に人類学的な見地から言って、ブルックリンの民は、私がこれまで遭遇したどの部族よりも見知らぬ他人と話すのを嫌がらない」（5）と書いていたことを思い出した。

スタンプタウンコーヒーは、東京・参宮橋のパドラーズコーヒーで飲むことができる。エスプレッソやカフェ・ラテがそもそも何であるのか知りたい人は、http://www.handpresso.asia/coffee_different.htmlが参考になる。多くのコーヒーハウスのホームページが、コーヒーをめぐるアートや社会問題について紹介している。英語の勉強にもなるので、ぜひ本稿で紹介した企業のものから閲覧してもらいたい。

引用参考文献

Auster, Paul. *The Brooklyn Follies*. New York: Henry Holt and Company, 2006.

Miller, Sandy. *Café life New York*. Gloucestershire: Chastleton Travel, 2008.

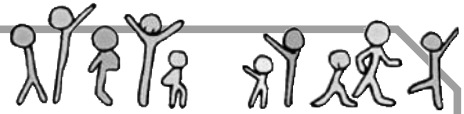
Phelan, Ben. "Coffee's Next Wave." *GQ*. October 2010.

Strand, Oliver. "New York Is Finally Taking Its Coffee Seriously." *New York Times*. 9 March 2010.

———. "Want Coffee Brewed Your Way? Be Specific." *New York Times*. 13 May 2013.

『プラダを着た悪魔』（*The Devil Wears Prada*）、デヴィッド・フランケル監督、2006年（20世紀フォックス・ホーム・エンターテインメント・ジャパン、2007年）。

英語でプレゼンにチャレンジ



経済学部 三川 克俊

0. 日本語でもプレゼンは苦手なのにましてや英語でなんて、と思っている人が多いと思います。筆者もそうでしたし、現在でも得意なほうではありません。20年近く前、イギリス留学中に授業で初めてプレゼンをしなければならなくなったとき、慌てふためいたことを覚えています。周りには現職の教員が各国から留学生として集まっており、みなプレゼンには慣れている印象でした。英語で原稿を何とか書き上げ、読み上げたのですが、質疑応答はスムーズにはいきませんでした。その後、帰国し、学会など様々な場所で、いろいろな人のプレゼンを見てきましたが、日本人のプレゼンは概して上手ではありません。典型的なのは、聴衆を見向きもせず、原稿を下を向きながらボソボソと読み上げるだけ、あるいはパワーポイントのスライドにぎっしり書かれた文字を読み上げるだけ、まったく聴衆には関心がないかのような独りよがりのプレゼンが実に多い。質疑応答も英語がよく聞き取れないのか、応答に窮してしまうことも多い。こうした反面教師をたくさん見てきたせいか（見させられたというべきか）、上手いプレゼンをするにはどうしたらよいのか、という質問をずっと考えてきました。現在、「イングリッシュ・プレゼンテーション」という科目を担当しているので、そこで教えている内容を少しお話してみようと思います。

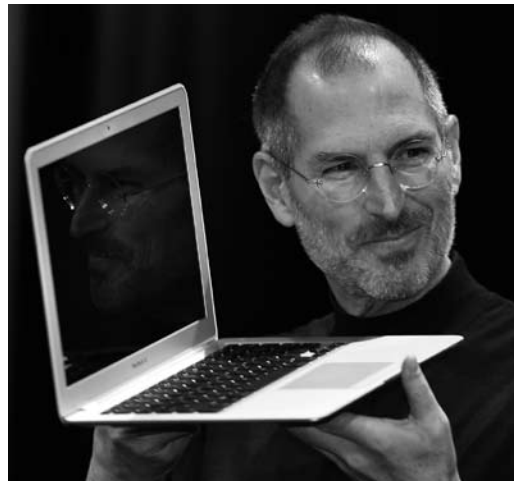
1. プレゼンは聴衆のためにある（お笑い芸人に学ぶべし）

上手いプレゼンを見ていると、ユーモアで聴

衆を笑わせたり、聴衆の目つきが真剣になっていて、彼らが眠ることなどありません。これは聴衆が聴きたいこと、知りたいことは何か、ということを研究しつくしてプレゼンを行っているからなのです。もちろん、自分の伝えたいことを発表するのがプレゼンの目的なのですが、自分の伝えたいことをどうすれば聞いている人に関心を持ってもらえるか、ということを絶えず考える必要があるということです。これは実は、みなさんのよく知っているお笑い芸人が日頃いつも実行していることなのです。「つかみ」という冒頭で、聞いている人に注目させなければ、その後の話を聞いてもらえません。お笑い芸人は「ネタ」の原稿を書き、どうしたら笑ってもらえるかを研究し、何度も何度も練習します。

2. プレゼンにストーリーをもたせる（善玉と悪玉を登場させる）

上手いプレゼンには大抵ストーリーがあります。事実の羅列だけのプレゼンは面白くもありません。この原稿執筆中に放映中のTVドラマ「半沢直樹」を見た人はよくわかると思いますが、主人公の最後の決めゼリフの「やられたらやり返す。倍返しだ！」を聞くと胸がスカッとします。これは現代版の「水戸黄門」だとよく言われていますが、主人公が敵の悪役に苦しめられ、最後には大逆転して勝利を収める、という古典的なストーリーが見ている人をハラハラドキドキさせるのです。アップルの創始者の故スティーブ・ジョブズのプレゼンを見



スティーブ・ジョブズ
2008年マック新製品のプレゼン

たことがありますか？新製品を発表するときの彼のプレゼンはストーリーに満ちています。基本は「現状問題」イコール「ライバル製品」すなわち「悪玉」を登場させ、ユーザーは現状に満足していない。そこで解決策として「善玉」すなわち自社のアップルの新製品を売り込むというストーリーです。実はスティーブ・ジョブズのプレゼンは、大昔にアリストテレスが考案した人を説得する5つのステップを見事に満たしているのです。それは、

1. 聞き手の注意を引くストーリーやメッセージを提出する
2. 解決あるいは回答が必要な問題あるいは疑問を提出する
3. 提出した問題に対する解答を提出する
4. 提出した解答で得られるメリットを具体的に記述する
5. 行動を呼びかける（ジョブズはプレゼン後すぐに新製品を買って下さい、と呼びかけたのでしょう）

聴衆は細かい事実や数字を忘れても、ストーリーは記憶するものだ、ということを忘れない

てください。

3. プレゼンの要点は3つまで（3点ルール）

最近の脳科学の発達で、人間の頭が楽に思い出せるのは3項目から4項目まで、ということが分かっています（しかも集中力は10分が限界！）。プレゼンに何もかも詰め込もうとしてパワーポイントのスライド何十枚にぎっしりの箇条書き、しかもそれを棒読み、そして時間切れで質疑応答の時間がなくなる、という最悪のプレゼンにならないようにするためには、3点ルールを覚えておくといよいでしょう。3匹のこぶたの話の思い出してください。一番目の子豚の家はわらの家、オオカミに簡単にふきとばされてしまう、二番目の子豚の家は木の家だが、これもまたオオカミに簡単に壊されてしまう、しかし三番目の子豚の家はレンガ造りで、オオカミの攻撃にもびくともせず、最後にはオオカミをやっつける。どうですか？見事に善玉・悪玉を含むストーリーと3点ルールを満たしているではありませんか？筆者の授業でも見せていますが、先述のスティーブ・ジョブズの有名なスタンフォード大学卒業式のスピーチも「今日はみなさんに3つのことをお話ししたい、と思

います」から始めています。非常に感動的なスピーチですので、YouTubeで是非ご覧ください。

4. プレゼンの英語は中学レベルで十分（間違いを気にせず自信をもつ）

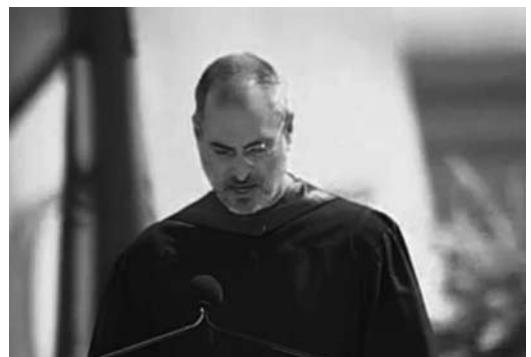
いままでのことは日本語でもあてはまるお話でしたが、英語でプレゼンとなると頭を抱えてしまう人のために簡単なアドバイスをしましょう。まず「英語は外国語なのだから、間違えて当たり前。聴衆は日本語がわからないから、こちらがわざわざ英語でプレゼンしてやっているのだ」という心構えをもつようにしてください。間違いをしたら恥ずかしい、とか発音が悪くて通じないのではないか、などという周囲の目を気にする日本人の悪しき完璧主義をもっているとプレゼンなど到底できません。英語は中学レベルの英語で十分です。オバマ大統領の“*Yes, we can!*”やキング牧師の“*I have a dream.*”が分からない人はいないでしょう。聴衆を感動させるために、受験英語で学んだ難しい単語は必要ありません。やさしい英語で十分なのです。一般的に日本人のプレゼンがわかりにくいのは、ひとえに難しい英語を使い、しかもその原稿を下手法で発音で、しかも小さな声で早口で読み上げるので、よけいにわかりにくくなる、という悪循環に陥ってしまうからです。ソニー創業者で名古屋市出身の故盛田昭男氏の英語スピーチを聞いたことがありますか？理系の技術者出身である盛田氏の英語は発音など決して上手とは言えず、文法的な誤りも少々ありましたが、日本を代表する財界人としてアメリカのテレビ番組にも数多く出演し（通訳は使わず、もちろん英語で）、アメリカ「タイム」誌が選ぶ20世紀の20人に日本人として唯一選ばれた素晴らしい英語の使い手でもありました。YouTubeでぜひ盛田氏の英語を聞いてみてください。

5. 最後に（プレゼン上達のためには練習あるのみ）

上手なスポーツ選手のお手本を見ずして上達しないように、お手本となるプレゼンを見ずしてプレゼンは上達しません。NHKで放送中のスーパープレゼンテーションなどで取り上げられているTEDのプレゼンなどは非常に参考になります。これもYouTubeで簡単に見られますので、是非チェックしてみてください。

最後に練習あるのみです。最初のうちは英語で原稿を書いてそれを暗記するのは仕方ありませんが、本番では原稿を読まないようにすべきでしょう。そこまで練習するべきです。舞台俳優が台本を読みながら本番で演技をしているのを見たことがありますか？あり得ない話です。できれば自分のプレゼンをビデオに撮って聴衆のフィードバックを求めるとよいでしょう。自分のプレゼンを見るのは誰でも恥ずかしいものですが、自分のプレゼンの欠点がよくわかると思います。

Practice makes perfect. Good luck with your presentation in English!



スティーブ・ジョブズ
2005年スタンフォード大学での卒業式スピーチ

A Glimpse of England in the Summer of 2013



John Hamilton (Faculty of Law)



SHEKOYOKH playing for the guests

The Racton Church Fete is held in our garden every other year on the Saturday of the Bank Holiday weekend at the end of August. The purpose this time was to raise money to help repair the Racton Church east window. The fete opened at 2:00 pm. During the morning there was torrential rain and flooding in several of the villages nearby. But by lunchtime it had cleared up and the sun was shining. Because of the rain fewer people came (1200 as against 1500 two years before) but it was cooler and less crowded

and a much nicer fete.

On the day of the Fete as before I was in charge of the CAR PARK. I half expected I would be spending the afternoon pushing people out of the mud, but this didn't happen. Two years before Muramatsu sensei from Aichi University kindly helped with the Disabled Parking. This time the main members of the parking team were Tom Dibley, who in real life works for WIGGLE (Wiggle is a fast growing on-line bicycle shop based in Portsmouth), and Simon Harris, the

father-in-law of my second son, with his dog (he is a land agent in Northamptonshire, at the moment doing a lot of work related to HS2, the new High Speed railway that is being proposed across the Midlands), and Colin Airton who lives down by the church, and Sean Elliot who comes from Leigh Park (famous for George Thomas Staunton who took part in the Macartney embassy to China 1792-94). Sean is on the way to becoming a professional soldier. And there was Carl from Sweden, a friend of my Oliver. Actually it was thanks to Carl and Sean, and also the rain, that I was able to escape from the car parking this time and enjoy the fete myself almost for the first time.

The only helper from Japan this summer was Odawara sensei from Chukyo University who arrived without much warning the night before. We had no bed for her, but fortunately my daughter Meg's plane back from Romania was delayed so she was able to sleep in Meg's bed. As before Odawara sensei worked like a slave washing up the teas but was able to escape at the end to the SECOND HAND BOOK stall. I think that the books which she found will have made her luggage for the return journey to Japan very heavy. This year the quality of the books-old books, paperbacks, antique books, first editions etc-was particularly high, with very good people

selling them like Charles Laughton (a lawyer who used to assist Rio Tinto Zinc (RTZ) with its international mining contracts) and Felicity who came back to the fete from New Zealand. I know the books were of high quality because almost none of them were sold at the end (!) so much so that I was able to bring back some as *Omiyage* to Japan. I gave Sakata sensei, a part time English teacher at Sasashima, a very nice little volume "Spiders" by W.S.Bristowe (King Penguin Books), and for Angus Macindoe I brought a book on identifying birds' eggs "Birds' nests, eggs, and egg-collecting" by K.Kearton (Cassell&Co Ltd) -it is beautifully illustrated - and for Maeda sensei at Chukyo where I teach Taiikugakubu Eigo on Wednesday mornings I gave "I Leap over the Wall A Return to the World after 28 years in a Convent" I also found a nice book about Haunted Houses which I plan to read with the students in make-up classes.

The fete was opened by Val Biro, owner and driver of the famous car GUMDROP. I think he is Hungarian and related to the inventor of Biro ball-point pens. Gumdrop arrived with Val Biro at the wheel at 1:45 pm carrying SHEKOYOKH, the Klezmer band (with Meg on viola) which had boarded her at Racton Church, and which played as the guests arrived, before they hurried off to play at a wedding in Hambledon nearby.

(Hambledon is where cricket was invented.)

One of the attractions of the Fete is the DOG SHOW and the TERRIER RACING. It means that a lot of people turn up with their dogs, some of which are very beautiful, at least the owners think so. (I think of Mia Nagae of Seto Kamishinano who is now living in Tanegashima, who has 2 fine French Bulldogs, Ringo and Cherry, which were not at Racton Fete, but which could have been.) The terrier racing is always



The Dog Show



SOAK THE BLOKE. Here is the victim !

full of incident, because terriers are intelligent, sometimes too intelligent.

Another attraction was SOAK THE BLOKE in front of Cardinal Pole's fig tree on the bowling green. I think this was put on by the Dallaways, an army family with 8 children, who have recently come from Thorney Island Camp to live in Lordington Mill (where we used to live). They have had the Union Jack flying in front of the Mill all summer, which I like, but which has been causing controversy with 'village elders' saying it should be taken down. It is a bit like the *Hinomaru* in Japan. Recently UKIP (the United Kingdom Independence Party) won the local election in our area, so the issues are very much alive.

The Racton Fete is a great chance for local people to meet. In my case I was pleased to see Alex Pearson who runs the BOOKWORM (Internet Café, library, and Bookshop) in Beijing with branches in Suzhou and Chengdu. Alex's father was Naval Attaché in Beijing in the 1980's and her mother who is Dutch was in a Japanese internment camp in Djakarta as a child. They live in Emsworth nearby and all three came to Racton Fete. I was also pleased to see the farmer Andrew Elms who was selling his LORDINGTON LAVENDER soaps and sprays. I bought a spray

which I have brought back to Japan. I don't think I can use it myself and I am not quite sure who to give it to. I think I will give it to Nobuchan who I met by chance late at night in Nakamura-ku, who introduced me to Inukai-san (愛知大学同窓会) who then guided me to the bath house *Jizo yuu* (地藏湯) where I now go to have a bath every Monday, after a good supper at Inukai-san's place. Andrew Elms has another life running a Mozzarella cheese farm near Brasov in Romania, and Relu comes across from there to do a lot of

the tractor work for him at Lordington. Relu also came to the fete. I think Mozzarella cheese is made out of the milk from water buffalo (水牛). And I was pleased to meet Jessica Smith who was in my English class at Warblington School before I came to Aichi. They live next door but she is always working. They have a residential home for the over 90's. Some of the residents are very distinguished and the residential home is highly thought of. Jessica told me that she is going to take up beekeeping.



Alpacas

TOEIC300点から始めて… こんな勉強方法をしてきました!!

在学生 座談会 司会：古荘智子（名古屋語学教育研究室）

「TOEIC のスコア、上げたいけどどうしたらいいかわからない」、「テキストは買ったものの、長続きしない」、「どうせ上がらないし、既に諦めモード」そんな声が聞こえてくる中、マイペースで勉強を続け自らのスコア更新にチャレンジし続けている愛大生の代表として、今回は 5 人の方に座談会に出席していただき、TOEIC の勉強法を中心にお話を伺いました。



出席の皆さん

国コミュ学部3年 市川友愛さん

経営学部3年 匿名

法学部4年 村瀬 駿さん

経営学部3年 工藤 徹さん

経営学部3年 藤田卓也さん

古荘：今日はお集まり下さり有難うございます。

まずはじめに、皆さんはどんな方法でTOEICの勉強をされてきましたか？

半年で120点UP！



匿名：私はListeningが弱かったので、授業以外にALC Net AcademyのTOEIC 2000を空き時間に利用して勉強しました。

答え合わせをした後に何回も繰り返して聞いていました。Part 5の文法問題はどうしても直感的に答えてしまうのですが、練習問題の時は、他の選択肢がなぜ間違っているのかをしっかりと確認をするよう心がけました。Part 6 & 7は、e-mailやビジネスマナーに関するトピックが苦手だったので、克服するようにしました。2年生の1月に定期試験として受けたTOEIC IPのスコアが半年間で120点ほどアップしました。とても嬉しかったです。

沢山解いて、しっかり定着



村瀬：僕の場合、Listeningは Dictation（音声を聞きとって書き取る）をやっていました。それからあとは、問題を沢山解くようにしていますが、聞いた問題のフォローをしっかりとするようにしています。理解を深めるために何度も聞き直して、自分の中に落とし込むように、きちんと消化するようにしていきます。Readingは、試験の時に最後まで解き終えるのが難しかったので、時間内に解くように時間を意識して解いています。



300点→750点へ…



工藤：初めて受けたスコアは300点だったんです。中学英語が分かんないレベルから始めたので、中学文法の参考書を3回ほど繰り返してやって、それから中学レベルの単語を覚えて…。たぶんそれで、500点くらいに上がりました。それから公式問題集4と5を買って、ひたすら何度も繰り返して勉強しました。

古荘：工藤君は先日、「400から700までは誰でも3か月あればいけます！」って仰いましたよね。(笑)

工藤：(笑) その人のやる気の強さとか、追い込まれている程度にも因ると思うけど、できると思いますよ。

古荘：なぜTOEICを？

工藤：2年生の時、1か月間インドに行って、その時に小さな子供達が生きていくために、みんな英語を使っていたんですよ。なのに日本人の旅行者は全然喋れない。それってどうなんだろう？と思って。でも、会話よりまずはTOEICかな、と。インドを旅している間に、1年間休学して海外を歩いてみよう、と決めていたんです。それで、帰国してから、授業とバイトとTOEICの勉強をして500点取って、1年間中南米を周って帰国後にもっとスコアを上げたくて、勉強を再開して750まで。とにかく公式問題集をひたすら。リスニングは1問、1問、きっちり文法を意識し、状況をイメージしながら…100回ずつは聞いていると思う。

一同：うーん、すごい！

古荘：自分で勉強法を編み出して勉強できるっていうのは、素晴らしいですね。藤田君はどうですか？

e-ラーニングが役立った！

藤田：はい、自分はまずe-learningで上げたというのが大きかったです。商業高校出身で英語の授業が少なく英語に触れる時間が本当に限



られていたんです。e-learningは2年生の時の英語の授業でスタンダードコース30%が課題だったのが、すごく良かったんです。沢山英語に触れることができた。英語に慣れることができたんです。あとはモチベーションを上げるために海外のサイトを見たり、コンピュータが好きなので海外のコミュニティーサイトを見たり、書きこんだりしています。基本的な英語で基礎学力をつけ、実際の英語でモチベーションを上げる、という形でやってきました。それから、英会話講座を取ってからListeningのスコアが45点アップしたので効果があったと思います。

次は900点突破！

市川：私は、高校の時まで英語が得意だと思っていたのに、初めて受けたTOEICのスコアが思っていたよりずっと悪くて(笑)、それで頑張ろうと思って勉強を始めました。カナダに3



か月留学することになっていて、それまでに2冊の参考書を何度も何度も、繰り返し勉強しました。留学前は「留学がすべて」のように考えていましたが、留学してみると「日本でも十分勉強できる」ということが分かったので、さらにモチベーションが上がりました。帰国後730点、そこから780まではまだ2冊の文法書で。そこからは、TOEICの勉強はしなくなり、空き時間にずっとカナダのラジオを聞いたり、好きなDVDを見て、その英語を書き取ってスクリプト本を作ったり、Japan Timesの記事を毎日1

つずつ要約して自分の意見を書いたり。

一同：すごい～。

市川：電車の中では、アプリの無料の文法問題をやってみたり。それで、6月のTOEICで850点。今週末また受けるので、上がればいいな、と。

古荘：みなさん、本当にすごい…。ところで、就活の方、そろそろ始まりますが、就職はどのように考えていますか？村瀬君は4年生ですが…。

村瀬：4月の時点で、海外展開に意欲的な会社内に内定が決まりました。海外勤務を希望しています。来週の内定式でTOEICの試験があります、勉強しなきゃ。(笑)入社式の後にもありますよ。面接の時に気づいたんですが、TOEIC 745点は英語が得意、とアピールできないんですよ。それより、イギリスに1か月間行っていた時に、英語を道具としてコミュニケーションを取った、取れていた、ということをアピールしてきました。

匿名：私は、就活が始まるまでに650点は欲しいな、と。Readingが弱いのもっと伸ばしたいと思っています。

藤田：僕はワーキングホリデーに行ってみたいと考えています。日本の企業よりアメリカの企業の方が縛られない自由な感じがしています。目標は750点欲しいです。大学院に入るためにもそれくらいのスコアが必要なので。

市川：私は900点越えられたら、と。留学歴が3か月ということで、引け目に感じるように、もっとスコアをあげて自信につなげたいと思っています。外資系の企業も視野に入れて就活をしていきたいので、そうすると当然アプリケーション・フォームから英語を使うことになります。

古荘：当然、面接も英語ですよね。

市川：はい。グループディスカッションで、あるトピックに関して自分の意見や考えを聞かれる場合もありますので、英字新聞を読んで、自分の考えをまとめるようにしています。

古荘：工藤君は就職は？

工藤：しますよ。企業を受けます。自分が大学生活で何を考え何をしてきたのかを、自分の中でまとめておきたいし、企業の面接を通して見つめ直していきたいので。TOEICはこの10月末に800点を超えたいな。



座談会を終えて…

古荘智子



大学の TOEIC の授業や講座ではほんの限られた期間、限られたことしか学べません。あとは自分で試行錯誤しながら勉強すること、コツコツと地道で孤独な作業を積み重ねていくことが語学の習得には必要です。人に「教えてもらう」のではなく「自分で自分を育てる」自律的学習者になれるかどうか。お話を伺った5人の方々は、それぞれ自分なりの学習スタイルをしっかり身につけた素晴らしい「お手本」だと思います。

この記事を読んでいる皆さん、みなさんもきっとできます。「〇〇点取れたらいいなあ」という気持ちを、本気で実現してみませんか?! 頑張る皆さんを、心から応援しています!



私たちの留学体験記



私のロシア体験記

国際コミュニケーション学部3年
宮西 恵梨

今年の夏休みを利用して、第二外国語で学んでいたロシア語がもっと話せるようになると思いなと思ってロシアに留学してきました。まわりにロシアに行ったことがある人がほとんどいなく、不安半分期待半分で行きました。まわりの人たちに夏休みにロシアに行くことを言うと、とても驚かれました。そして、これは私の初めての海外体験でした。

ロシアはほとんどのところで英語が通じなくて、覚悟はしていましたが、ロシア語の表現が

わからないことがたくさんあって、多くの苦勞もしたわけですが、それ以上に楽しいこともたくさんありました。

私は友達と二人で、先生の紹介でモスクワ大学に留学したのですが、まずはじめに驚いたのは、その規模の大きさです。もよりの地下鉄の駅やスーパーからは歩いて15分かかって、とても遠く感じましたし、どこからどこまでが大学の敷地なのか分からないありさまで、迷うこともたびたびありました。外出すると、長い距離を往復することになるので、外に出たくないと思うこともあるくらい広い道でした。しかし夜9時ごろになっても夕焼けのような空でしたので、わりとおそい時間まで出歩くことができました。



ピョートル宮殿広間からの眺め（サンクトペテルブルク）

モスクワ大学とロシア滞在

国際コミュニケーション学部4年
今泉 亜悠

2012年夏、私は日本を離れロシアに向かいました。滞在期間は3週間。その間はモスクワ大学で留学を経験し、最後の3日程はサンクトペテルブルクを観光してきました。まず私は滞在中、大学の寮で生活していました。寮は二人で一つの部屋、トイレとシャワー、洗面所を共有しますが部屋の中にまた部屋が二つあり、それぞれの個室となっている為自分ひとりの場所は確保できます。大学も寮も1953年に建てられたスターリン様式の美しい建物です。校舎というよりはお城という言葉の方が似合うような超高層な建築物で、夜は建物がライトアップされとても綺麗でよく見に出て行っていました。但し内部も歴史を感じさせる箇所が多くあります。留学中もシャワーが壊れ、窓はなかなか開かない、電気が使えなくなる、トイレもガタがきている等、免疫がないと辛い部分もあるかもしれません。

肝心の授業についてですがグループ授業と個人授業が選べ、私は日本にいる段階で個人授業の希望を出していましたが手違いで台湾のロシア語学科で学んでいる学生たちと一緒にグループでの授業を受けることになりました。しかしグループ授業のお陰で心細かった留学生活に友人が出来、一緒にレストランや観光、周辺散策などをして楽しい思い出を作ることができました。また、その台湾の大学に留学の経験があったロシアの方のダーチャにも呼んでいただきました。ダーチャというのは日本で言う別荘のよ

うなものでロシア人の多くは普段町に暮らしながら郊外にも避暑や休養の為のセカンドハウスを持っています。呼んでいただいたダーチャはとてもどかな環境に立地しており、スローな生活をしている様子が伝わってきました。

観光についてはクレムリンやワシリー大聖堂などロシア定番の観光地を訪れました。観光地を訪れる際、現地大学の学生証は料金を大幅に割り引いてくれることが多いのでとても助かりました。食べ物についてはピロシキやボルシチなどロシア料理を沢山食べましたが中でもブリヌイが一番好みでした。日本で言うクレープの様なもので中身はチーズやサーモン、ハム、イクラが入っているものをよく見かけました。そ



して留学期間が終わるとモスクワを離れサンクトペテルブルクに電車を使って向かい、4時間程で着くことができます。サンクトペテルブルクはモスクワより観光地色が強く出ている印象を受けました。モスクワより英語が飛び交っておりツアーの呼び込みやお

土産物屋さんがたくさんありました。私はエカチェリーナ宮殿やエルミタージュ、ペテルゴフを訪れましたがいずれも建物の美しさや豪華さに感動します。また日本食ブームなのか、いたるところに寿司屋があったのが印象的でした。ワサビやガリもちゃんとあり、みそ汁は日本のものと遜色ありませんでした。

私はロシアを訪れる前、この国はもっと閉鎖的な印象を持っていました。しかし実際訪れてみるとフレンドリーに話しかけてくれる人もいますし、観光地では勝手のわからない私を助けてくれる人もいました。一度行ってみるとイメージがガラリと変わると思います。皆さんも興味を持ったなら是非！

～大盛況のLLシアタールーム～

豊橋ランゲージセンター施設紹介

2013年度よりLL教室後方に併設したLLシアタールームは、46型液晶テレビ、ブルーレイプレーヤー、プロジェクター、スピーカーなどを整備し、大人数で映像視聴を楽しめる新しい空間です。プロジェクター使用時は壁に映像を投影するため、大迫力の作品をみんなで共有し、作品についてより深く理解することができます。

また、映像視聴以外ではプレゼンや劇、ディスカッションなどの場として活用され、利用用途に応じて幾通りにも自由に対応できるのが、この空間の魅力の一つでもあります。利用者の反応はとても好評で、着実に利用者数が伸び、リピーターが続出しています。皆さんもぜひ、シアタールームの迫力を味わってください。

【2013年度前期の利用実績】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	6名	44名	109名	82名	8名	24名

大画面で見る映画は最高でした!! 大人数で同じ映画を共有できるので、シアタールームはおすすめです! (文・2年)

壁に大きく映像が映るから迫力があるし、ちょっと映画館で観ているみたいで楽しい。友達と自由にゆっくり観れる。(文・1年)

素晴らしい環境の中で外国語を勉強できて、幸せです。学生達にもっと使ってもらいたいです。最新のDVDをもっと増やしてほしいです。

授業ではこの教室を使ったことあったけど、初めて映画を見て楽しかったです。(短大・2年)

皆で同じ画面を見て共有できる楽しさ。一度味わうとやめられない魅力があります。(孔子学院)

ただいま演劇の授業で利用中



フランス語検定 合格者 大幅 UP

名古屋市が『国際歓迎・交流拠点』と位置づけて開発を進める「ささしまライブ24地区」に名古屋キャンパスが移転してちょうど1年。国際歓迎のためには個別の外国語の習得が欠かせません。フランス語履修者は長期留学、フランスセミナー参加、検定合格などの様々な具体的な目標を持って学習に取り組み、2012年の春学期に名古屋校舎所属の学生としては初めてフランス政府公認のDELTAや仏検の準2級に合格者が多数出ました。彼らの挑戦は秋も続きます。次はどんな成果を報告できるか、今から楽しみです。

2013年度 春季 フランス語関係検定合格実績	
DELTA A1&A2合格	経済学部3年生 女子
DELTA A1合格	国際コミュニケーション学部3年生 女子(2名)
仏検 準2級合格	法学部3年生 男子
仏検 準2級合格	国際コミュニケーション学部3年生 女子
仏検 3級合格	法学部3年生 女子(2名)
仏検 3級合格	国際コミュニケーション学部3年生 女子
仏検 3級合格	国際コミュニケーション学部2年生 女子
仏検 4級合格	多数

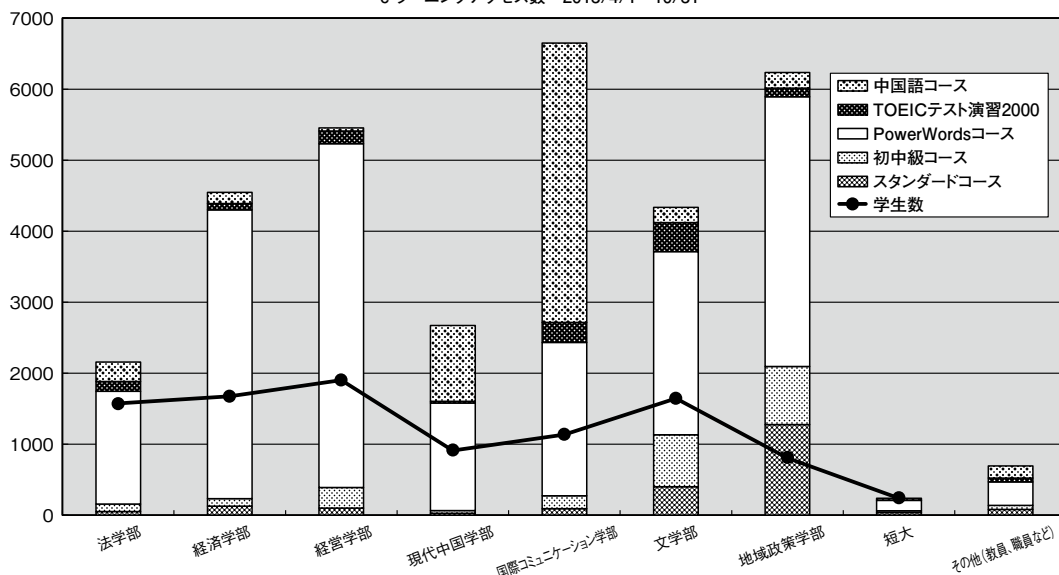


2013年4月より5コースに増設

e-ラーニング学習状況

2013年度 アクセス数 こちらも着実に 上昇中

e-ラーニングアクセス数 2013/4/1~10/31



年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
アクセス回数	992	2451	328	410	3355	1766	17277	36172	32979

2013年度 外国語検定奨励金のご案内

言語	名古屋校舎		豊橋校舎	
	試験名称	基準	試験名称	基準
英語	実用英語技能検定（英検）	準1級以上	実用英語技能検定（英検）	2級以上
	TOEFL iBT	50点以上	TOEIC	530点以上
	国際連合公用語英語検定（国連英検）	B級以上	TOEIC IP	①750点以上 ②前年比100点以上
	ビジネス通訳検定（TOBIS）	3級以上	TOEFL iBT	50点以上
	日商ビジネス英語検定	3級以上		
	通訳案内士（通訳ガイド）	合格		
ドイツ語	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上	ドイツ語技能検定（独検）	4級以上
フランス語	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上	実用フランス語技能検定（仏検）	4級以上
	DELTA・DALF	A1以上	DELTA・DALF	A1以上
	TCF	100点以上		
中国語	中国語検定	4級以上	中国語検定	4級以上
	新HSK	3級以上	新HSK	3級以上
ロシア語	ロシア語能力検定	4級以上	ロシア語能力検定	4級以上
韓国・朝鮮語	ハングル能力検定	4級以上	ハングル能力検定	4級以上
	韓国語能力	2級以上	韓国語能力	2級以上
タイ語	タイ語検定	4級以上		
	実用タイ語検定	3級以上		
日本語	日本語能力（JLPT）	N1級	日本語能力（JLPT）	N1級
	BJT ビジネス日本語能力テスト	460点以上	BJT ビジネス日本語能力テスト	450点以上
☆中国語は現代中国学部を除きます				
英語 TOEIC は教務課にて申請 在学中1回に限ります		650点以上		

受付け期間 名古屋校舎 2014年1月31日まで

豊橋校舎 2014年2月14日まで

※詳細は所属校舎の語学教育研究室にて確認してください。

奨励対象者 学部学生・短大生（協定留学生・院生・オープンカレッジ生等は除きます）

〈編集後記〉

今回の第3号では、「オススメ海外文化情報～英語圏特集～」と題して、語学だけでなく、様々な分野の先生方にご執筆いただきました。とても興味深いお話をたくさんいただき、編集しながらついつい読みふけてしまったものです。特に感じられたのが、先生方の「イギリス愛」。イギリスの料理は…と言われたのも、今は昔。百聞は一見にしかず、です。今回の特集で興味を持った方は、ぜひとも自分自身でその味を確かめに行ってみては？なお、この企画は今後も地域を変えて継続していきますので、知りたい国や地域があれば、ぜひリクエストをお寄せください！（T.K.）